



株式会社オプトラ
**個人投資家様向け会社説明会
ご説明資料**

2018年5月19日（土）

I. 当社の概要	P 2
-----------------	------------

II. 今後の成長戦略	P16
--------------------	------------

Appendix	P24
-----------------	------------



I. 当社の概要

- 会社概要
- マネジメント体制
- 会社沿革
- 代表的な当社製品
- 成膜例
- 競争力の源泉
- 決算ハイライト
- 決算ハイライト（2018年12月期第1四半期）

Our Vision

『薄膜技術の限界にチャレンジすることを通じ、高度情報化社会への貢献を実現する。』

当社は、「オプトナノテクノロジーによる光学薄膜成膜のプロセスソリューション提供」を事業コンセプトとしており、光学薄膜・真空技術などの分野で、グローバルな業界をリードし、先端的技術を反映した製品やきめ細かいサービスを提供することで、新たなIoT社会への貢献を目指します。

主な事業内容	光学薄膜装置等の製造販売事業
--------	----------------

設立年月日	1999年8月25日
-------	------------

創業者	代表取締役会長 孫 大雄
-----	--------------

代表者	代表取締役社長 林 為平
-----	--------------

従業員数 (連結)	639名 (2017年12月31日現在)
--------------	----------------------

資本金	400百万円
-----	--------

所在地	埼玉県川越市竹野10番地1
-----	---------------

上場市場	東証一部 (証券コード: 6235)
------	--------------------

グループ会社

(子会社4社、持分法適用会社2社)

【製造子会社】 ● 光馳科技（上海）有限公司
● 光馳科技股份有限公司（台湾）

【販 売 子 会 社】 ● 光馳（上海）商貿有限公司

【その他子会社】 ● Optorun USA, INC.

【持分法適用会社】 ● 東海光電股份有限公司
● 浙江晶馳光電科技有限公司

技術的バックグラウンドを有する国際的なマネジメントチーム Global & Professional Management Team



代表取締役会長

孫 大雄

1976年 中国蘇州医薬公司
1991年 埼玉大学大学院修士課程修了
1991年 (株)シンクロン入社
1999年 当社創業



代表取締役社長

林 為平

1981年 中国上海半導体デバイス研究所
1993年 電気通信大学大学院修了
1993年 (株)東京電子冶金研究所
2000年 当社入社
2014年 当社代表取締役社長就任



取締役 専務執行役員 管理部長

高橋 俊典

1972年 (株)日本債券信用銀行入行
1979年 Wharton Business School MBA
1998年 日債銀投資顧問(株)常務取締役
1999年 メリリンチ日本証券(株)
2001年 当社上級執行役員
2001年 当社取締役



常務執行役員 技術開発部長

範 資

1994年 中国科学院上海技術物理研究所入所
1999年 中国科学院上海技術物理研究所博士
2000年 当社入社
2017年 当社常務執行役員技術開発部長



執行役員 営業部長

宮 健

1985年 中国浙江大学大学院工学修士
1995年 中国浙江大学光学計器部副教授
1997年 (株)渋谷光学入社
1999年 当社入社
2001年 当社執行役員就任



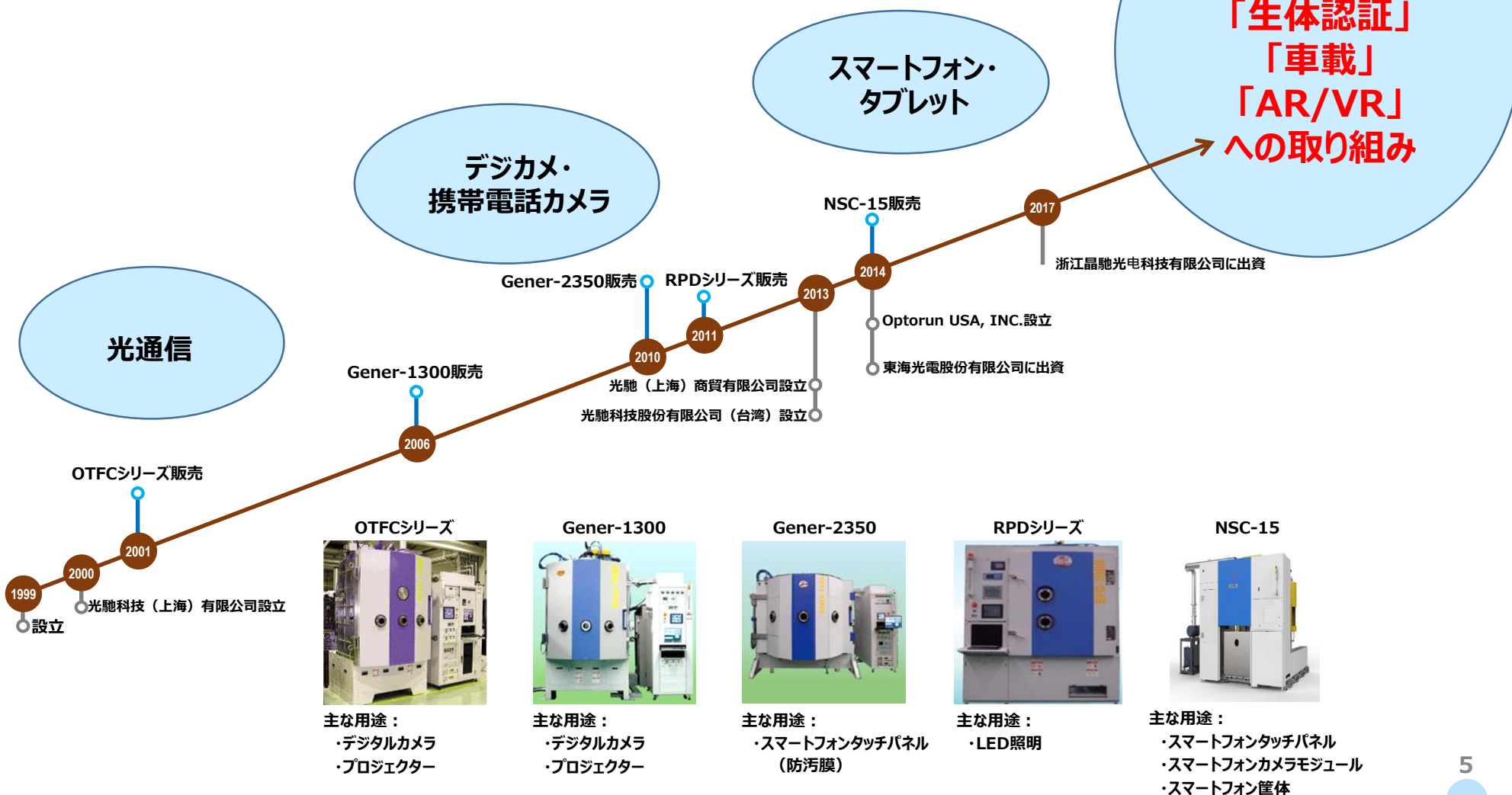
執行役員

光馳科技（上海）有限公司總經理

奚 建政

2000年 University of Newcastle 博士
2000年 当社入社
2017年 当社執行役員就任
光馳科技（上海）有限公司
總經理

常に最先端の技術難度に挑戦：最高水準の光学薄膜装置を開発



光学薄膜形成装置（OTFCシリーズ）



【薄膜形式】

- イオンビームアシスト蒸着方式

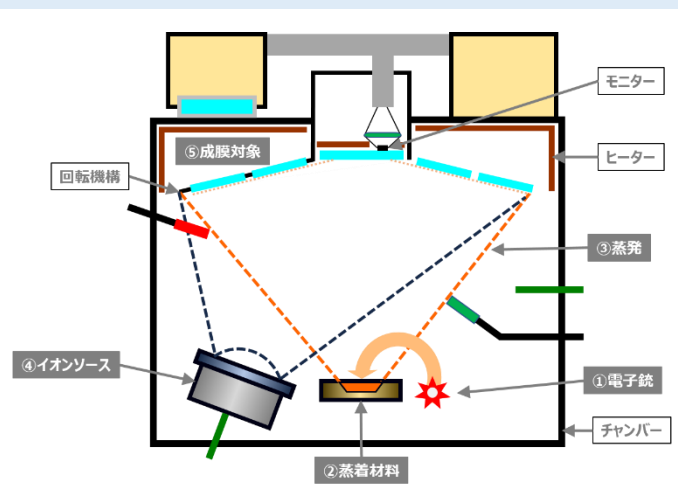
【主な用途】

- デジタルカメラ、プロジェクター等
各種光学部品

【主な成膜機能】

- IRカットフィルタ、帯域フィルタ、
ARコーティング等のシフトレス
光学フィルタ

イオンビーム アシスト蒸着 方式



光学膜用スパッタ成膜装置（NSC-15）



【薄膜形式】

- スパッタリング方式

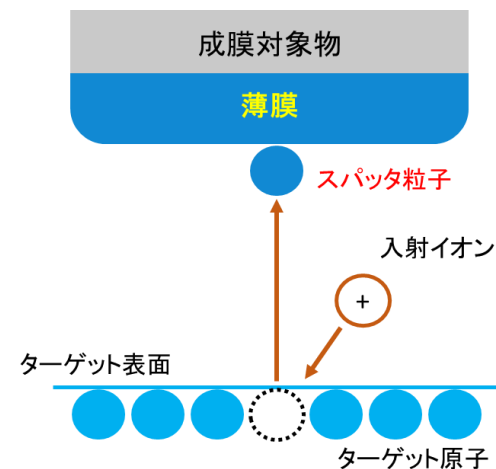
【主な用途】

- 量産用に適したモデル
- スマートフォン
 - ・タッチパネル
 - ・筐体
 - ・カメラモジュール

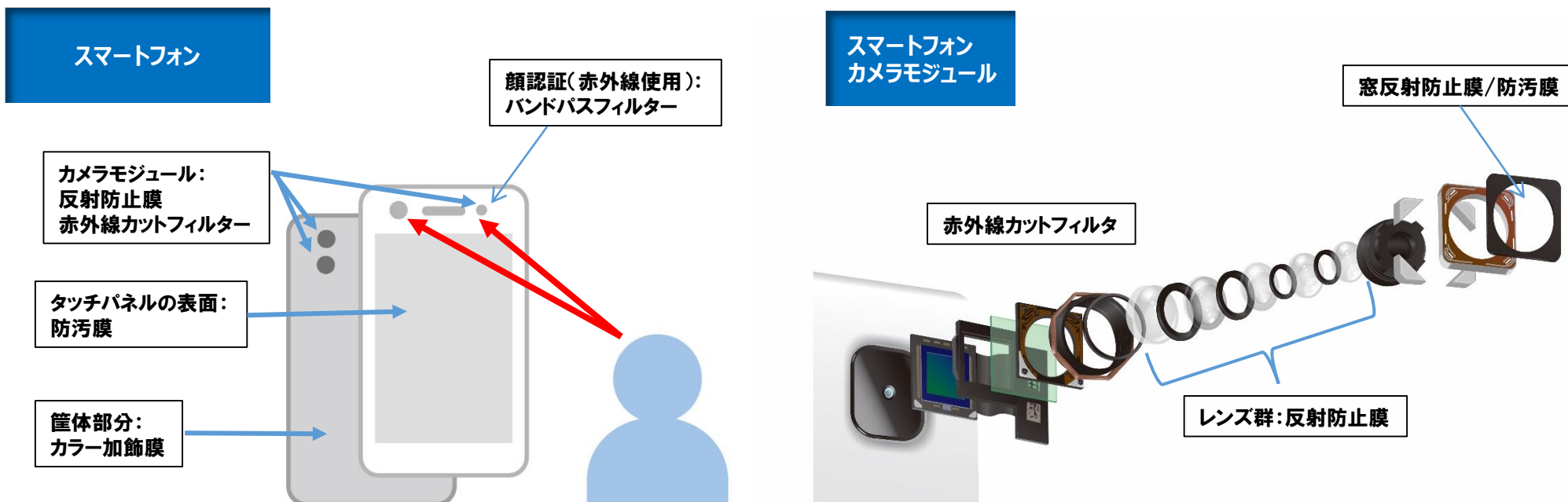
【主な成膜機能】

- ハード反射防止膜
- カラー装飾膜

スパッタリング 方式



当社の成膜技術はスマートフォンに不可欠な多くの機能の実現に寄与

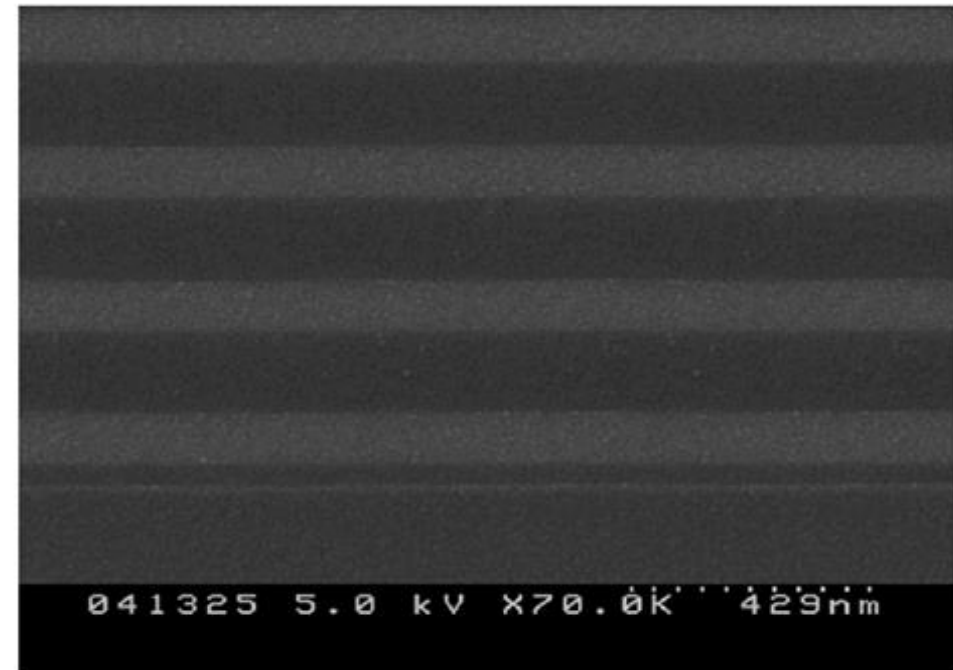
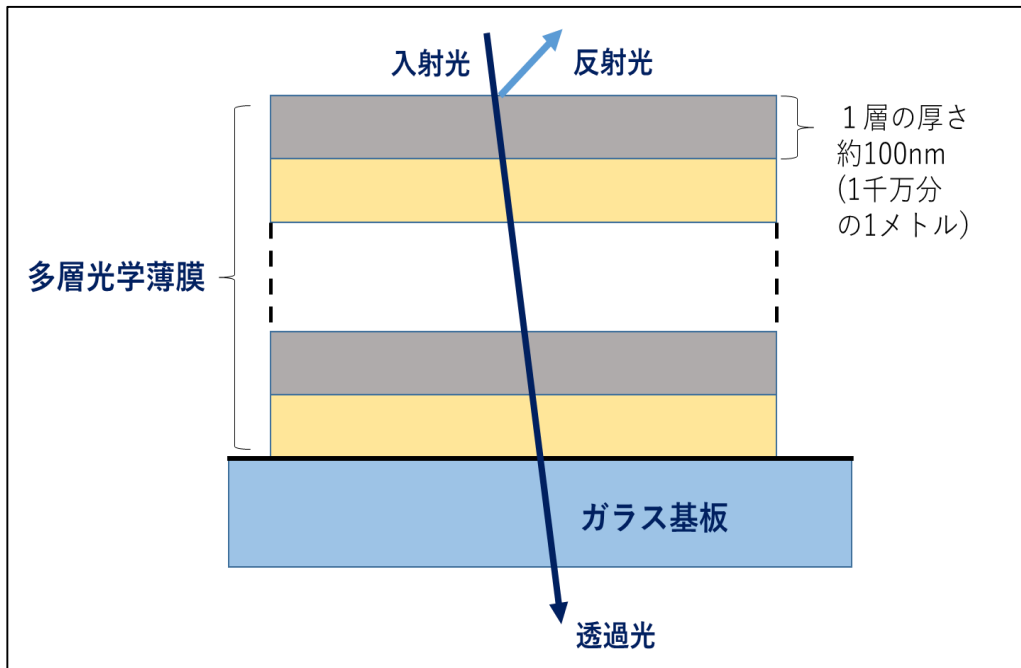


筐体部分：すべりにくく、手触りのよい膜の提供

成膜例 2

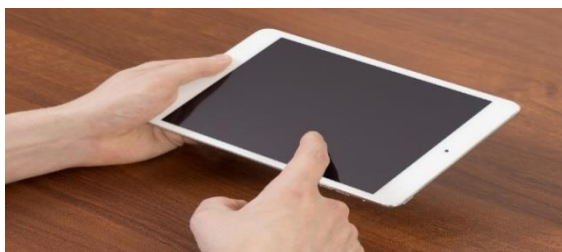
レンズ・フィルター等の表面にコーティングし、コーティング材料により様々な機能をもたせる。

- バンドパスフィルター（顔認証の赤外線発射・反射赤外線の認識機能）
- カラー加飾膜（背面ガラスへのカラー加飾膜成膜により、美しさ・滑りにくさを実現）
- 反射防止膜（ガラス表面の反射を低減させる膜）
- 赤外線カットフィルター
- 防汚膜（ガラス表面の汚れを防止する膜）



※電子顕微鏡で撮影

タッチパネル

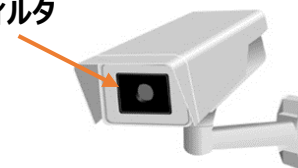


膜・フィルタ

- 傷防止膜
- 汚防止膜
- 曇り防止膜

監視カメラ

反射防止膜
バンドパスフィルタ



膜・フィルタ

- 反射防止膜
- 波長選択フィルタ（バンドパスフィルタ）

一眼レフカメラ



反射防止膜
赤外線カットフィルタ

膜・フィルタ

- 反射防止膜
- 波長選択フィルタ
(IRカットフィルタ or バンドパスフィルタ)

LED



膜・フィルタ

- ITO膜
- 窒化アルミ膜
- 増反射膜

競争力の源泉 ユニークなソリューションメーカー 1



モノとノウハウを一体で売るソリューション提供型ビジネス

- 当社が提供する2つの価値の組み合わせが顧客満足度を極大化
- 把握した顧客ニーズに対して最適なソリューションを提供できることが当社の強み

顧客との密接なコンタクト
を基礎とした研究開発（日本本社・上海・台湾）

【当社の研究開発】

- ① 製品開発前の顧客依頼による研究開発（共同開発を含む）
- ② 当社各拠点における長年の研究

技術が分かるセールスエンジニア
だからこそ可能な相談

顧客ニーズを近距離で
的確に把握

当社のプロセスノウハウによる
最適なソリューションの提供

【成膜プロセス】

- ① 光学薄膜の設計
- ② 実際の成膜時のプログラミングによる条件設定

光学薄膜装置を動かす
最適なノウハウを伝授

顧客が光学薄膜装置を
採用する決定的条件



競争力の源泉 顧客との密接なコンタクト 2

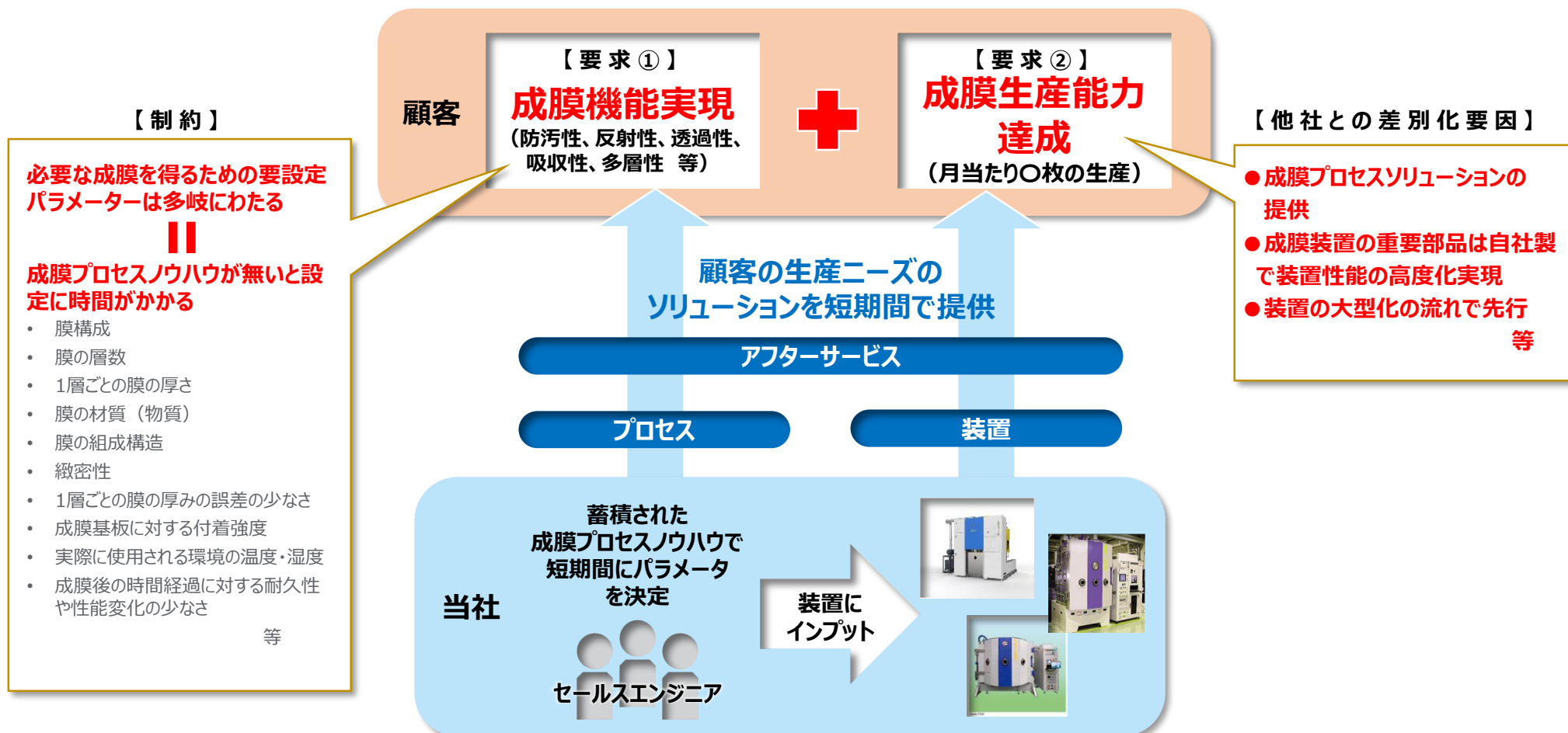
グローバル展開による顧客ニーズの把握

- 光学薄膜の開発・生産・販売の中心である中国・台湾・米国を中心に事業展開
日本は研究開発の基礎機能発揮と販売本部機能
- 拠点が顧客に近接することで顧客ニーズ把握・迅速なサービスを提供



競争力の源泉 ソリューション提供力 3

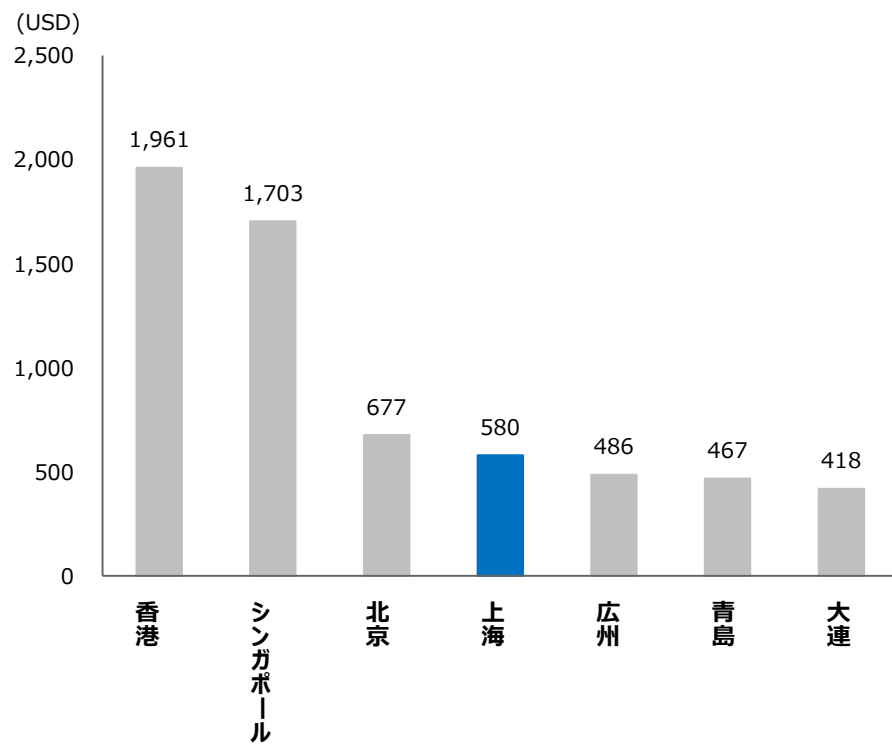
蓄積された成膜プロセスノウハウに基づく最適なソリューションの提供



競争力の源泉 上海・台湾での生産体制 4

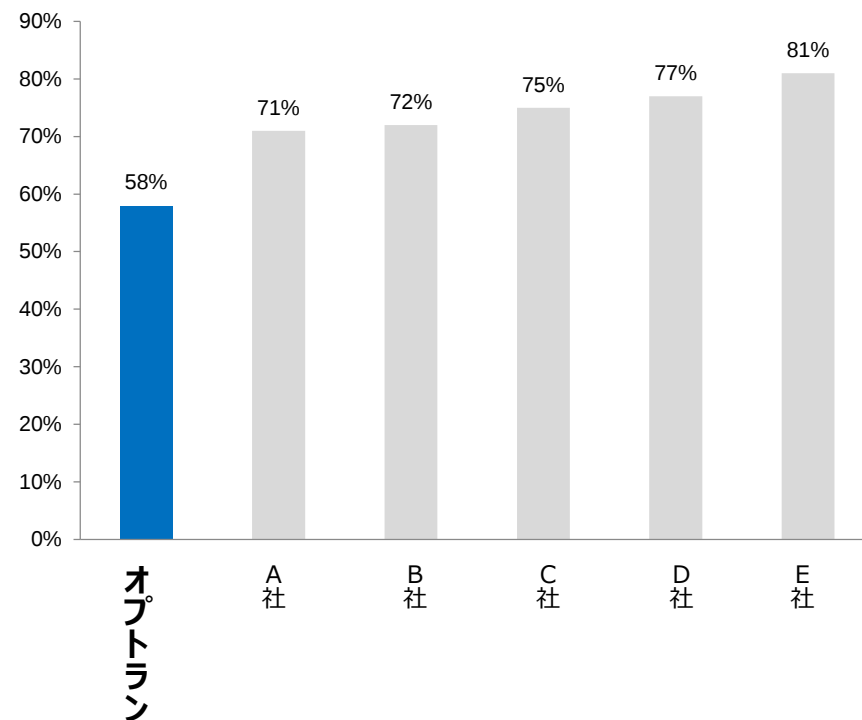
顧客立地に近く、効率的生産が可能な上海で主に生産し、生産原価を低減
追加的生産能力増強のため、台湾工場も地域特性に合わせ拡充

製造業：一般工の月額賃金の比較



※ 出所：三菱東京UFJ銀行 国際業務部『アジア・オセアニア各国の賃金比較（2017年5月）』

売上原価率比較



※1 SPEEDA業種分類において半導体・液晶製造装置（前工程）に分類される全上場企業のうち、液晶製造装置が主力事業（セグメント売上50%以上）と推定される企業

※2 各社の直近事業年度の売上原価率を記載

業績は大幅伸長

スマートフォン向け成膜装置が好調、監視カメラ・LED・自動車向け成膜装置も堅調

(百万円)

	2016年12月期	2017年12月期	前期比	2018年12月期 (予想)	前期比
売上高	14,903	33,385	+124.0%	43,800	+31.2%
営業利益	2,380	7,327	+207.9%	8,100	+10.5%
(営業利益率)	(16.0%)	(21.9%)	—	(18.5%)	—
経常利益	2,030	7,095	+249.5%	8,200	+15.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,466	4,815	+228.3%	5,700	+18.4%

決算ハイライト（2018年12月期第1四半期）



業績は堅調

- スマートフォン用は中国メーカー向けが増加、その他の高性能監視カメラ、LED・自動車・IoT関連の売上が好調で売り上げ構成比率アップ
- 中国メーカー向け装置売上が増え、利益率改善

（百万円）

	2018年12月期 （予想）	2018年12月期 第1四半期	進捗率
売上高	43,800	10,710	24.5%
営業利益	8,100	3,263	40.3%
（営業利益率）	（18.5%）	（30.5%）	—
経常利益	8,200	3,426	41.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,700	2,381	41.8%

（百万円）

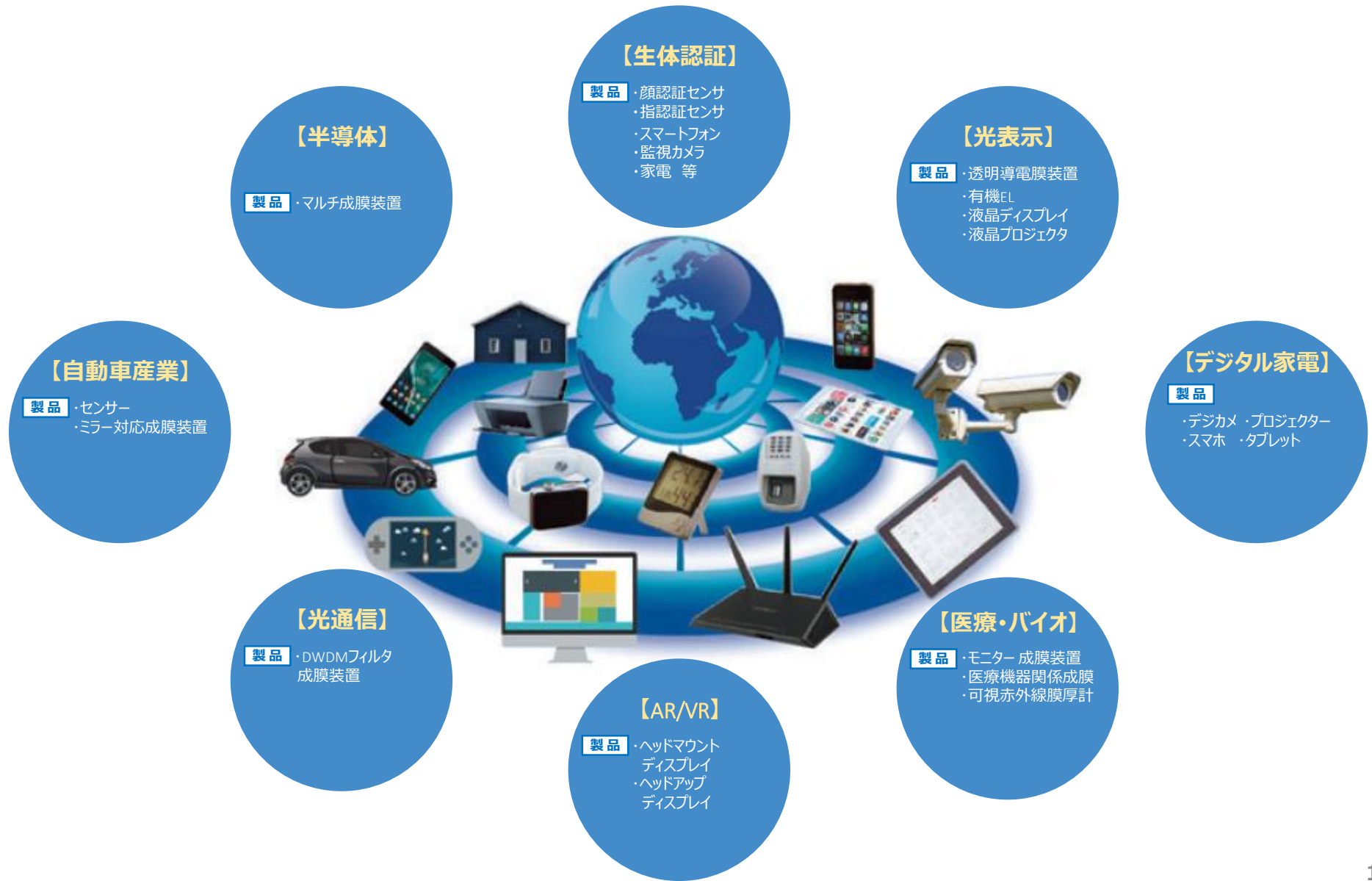
	2017年12月期	2018年12月期 第1四半期	増加額
受注残高	44,169	46,185	2,015



Ⅱ. 今後の成長戦略

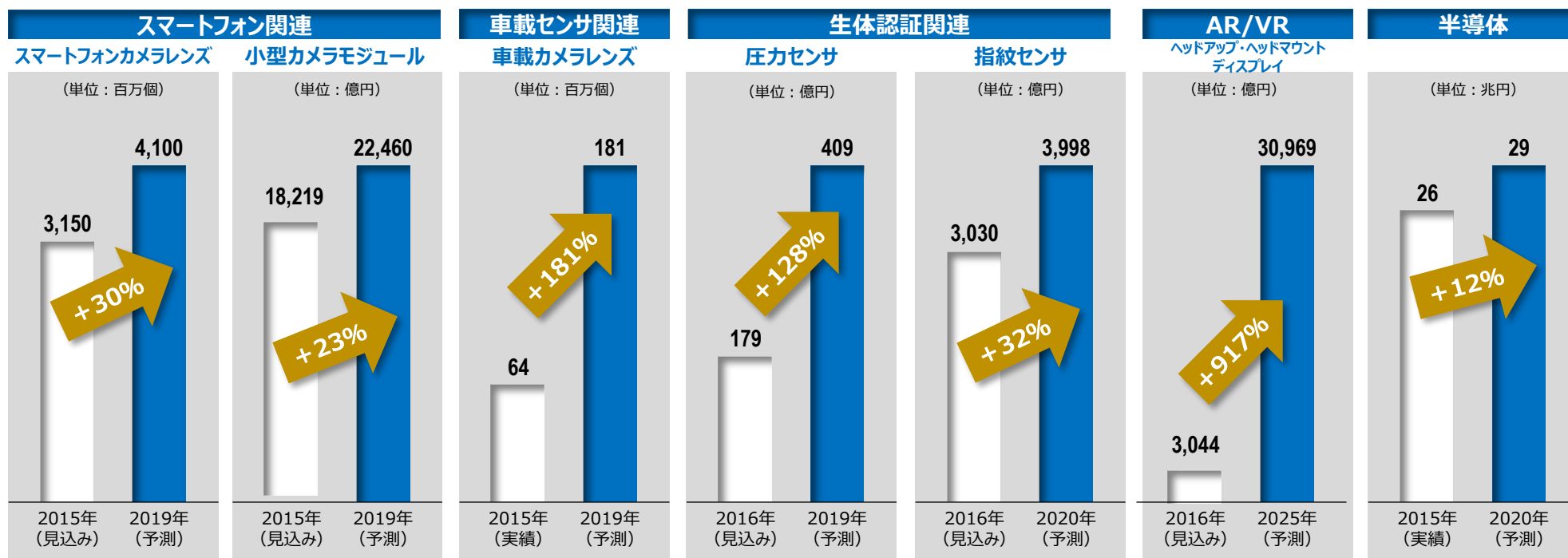
- IoTで広がる成長性
- 主な成長分野
- 中期経営計画(2018-2020) 2020年度目標
- 利益還元

IoTで広がる成長性 1/2



スマートフォン・車載センサ関連の他、生体認証・AR/VR・半導体光学融合が今後は有望

業界市場規模



出所：「スマートフォン関連スマートフォンカメラレンズ」は「2015年 光学/透明部品・材料市場の現状と将来展望」株式会社富士経済
「スマートフォン関連小型カメラモジュール」は2016/2/2公表「2016 イメージング&センシング関連市場総調査プレスリリース」株式会社富士キメラ総研
「車載センサ関連車載カメラレンズ」は「2016イメージング&センシング関連市場総調査」株式会社富士キメラ総研
「生体認証関連圧力センサ・指紋センサ」は2017/4/11公表「2017 センサーデバイス/ビッグデータ・IoT市場調査総覧（上巻）プレスリリース」株式会社富士キメラ総研
「AR/VR」は2017/3/13公表「2017 AR/VR関連市場の将来展望プレスリリース」株式会社富士キメラ総研
「半導体」は2017/1/17公表「2017 先端/注目半導体関連市場の現状と将来展望プレスリリース」株式会社富士キメラ総研

主な成長分野 ① 生体認証、AR/VR、光通信

生体認証

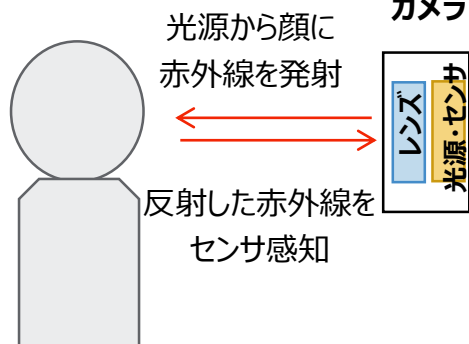
顔や目を正確に把握する



(顔認証の例)

生体認証

カメラ



- 赤外線LED光源用フィルタ
- カメラ部分へバンドパスフィルタ

AR/VR

画像を鮮明に映す

画面の傷・汚れを防ぐ



ガラス部分
硬質膜

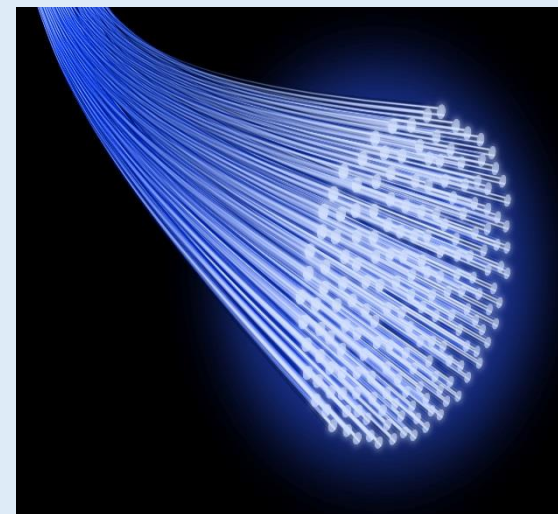
カメラ部分
IRカットフィルタ



- カメラ部分へIRカットフィルタ
- 画像パネル部分へ防汚膜

光通信

光ファイバーの伝送密度を高める



- DWDMモジュールへ
バンドパスフィルタ

主な成長分野 ②自動車

距離センサ

対象物までの距離を測るため



- センサ部分にLED光源とバンドパスフィルタ

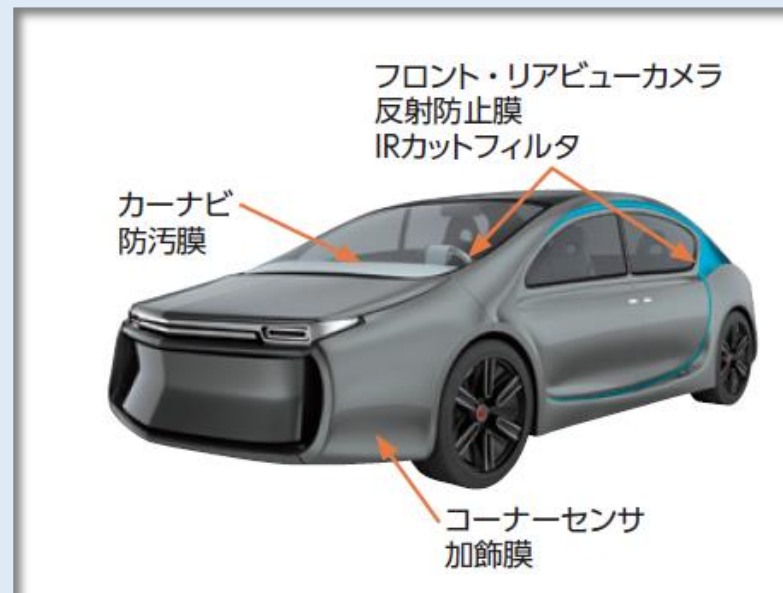
ヘッドアップディスプレイ

視界を遮ることなく、ディスプレイに画像を鮮明に映す



- ディスプレイ部分にハーフミラー膜

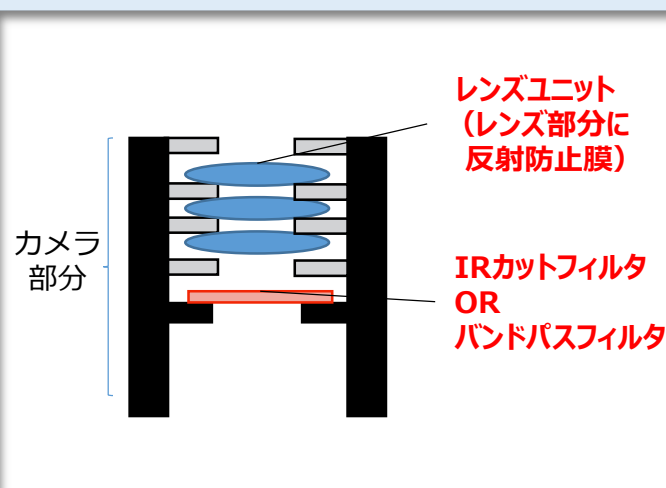
自動車各部品への成膜



- 車載カメラレンズへの成膜
- センサ機器への成膜
- 車載ミラーへの成膜

旧方式

レンズへの成膜→組立

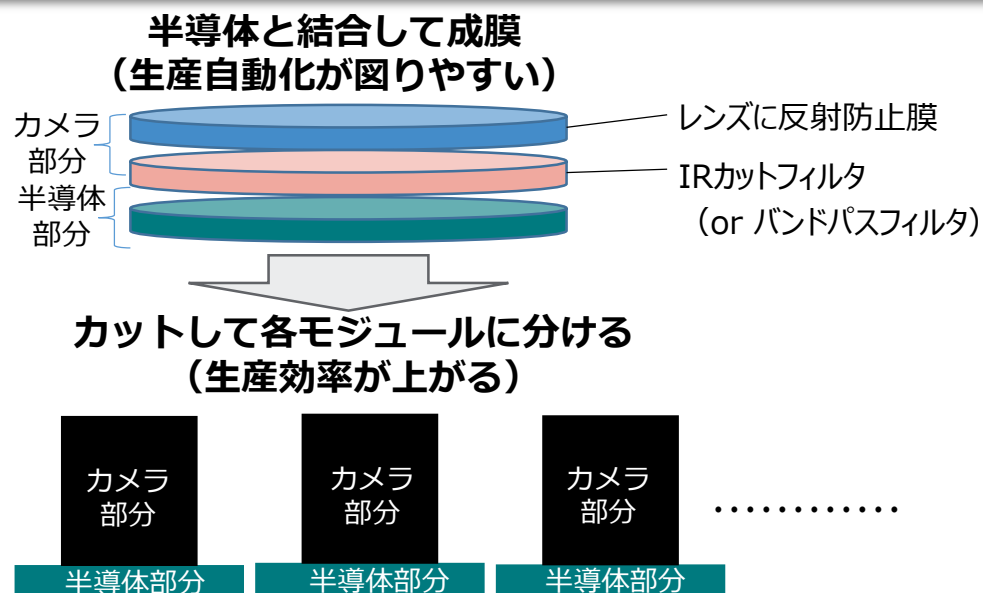


↓成膜後に半導体部分と結合



新方式

生産自動化及び半導体ウェハーへ直接成膜

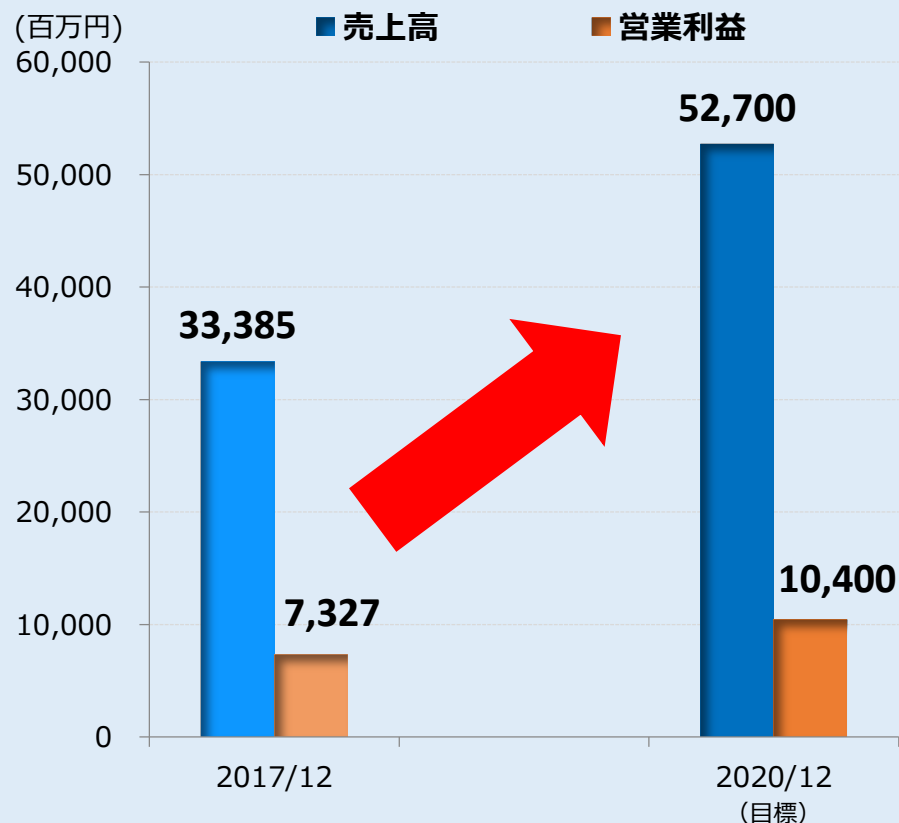


- 光学薄膜装置の半導体生産ライン自動化対応
- 半導体ウェハーへ直接成膜

中期経営計画(2018-2020) 2020年度目標



売上高・営業利益



重点戦略

1

世界トップレベルの技術開発型企业として、新機能成膜関連装置の研究開発を加速する

2

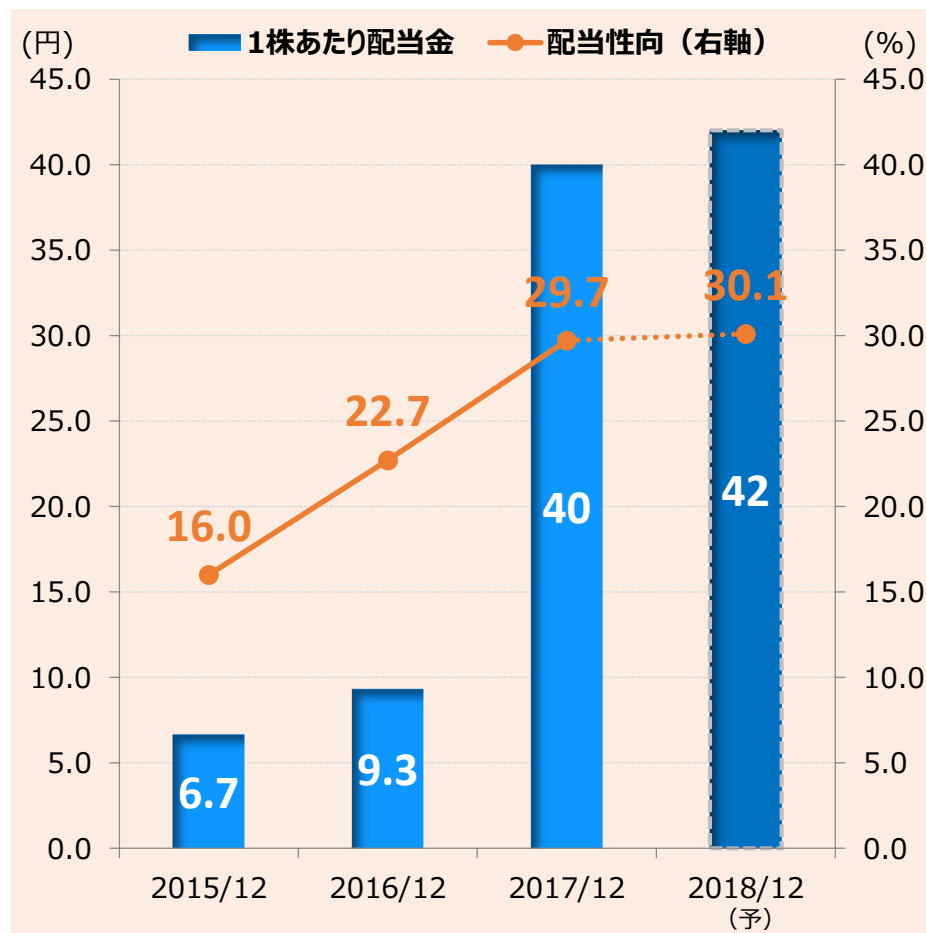
日本本社・上海・台湾の横断的運営(研究開発・生産・営業・内部管理)を強化し、世界市場をリードする事業総合力を発揮する

株主還元を着実に実施します

配当方針

研究開発投資、生産体制強化、新事業開拓等の必要な内部留保資金を確保しつつ、余力は株主還元を最大限実施します。

連結配当性向30%程度を目安に、
安定的な配当を目指します。



※ 2017年3月18日付で1:1,000の株式分割、及び同年10月13日付で1:3の株式分割を実施
2017/12期以前の1株当たり配当金は上記株式分割を反映し、遡及修正して表記

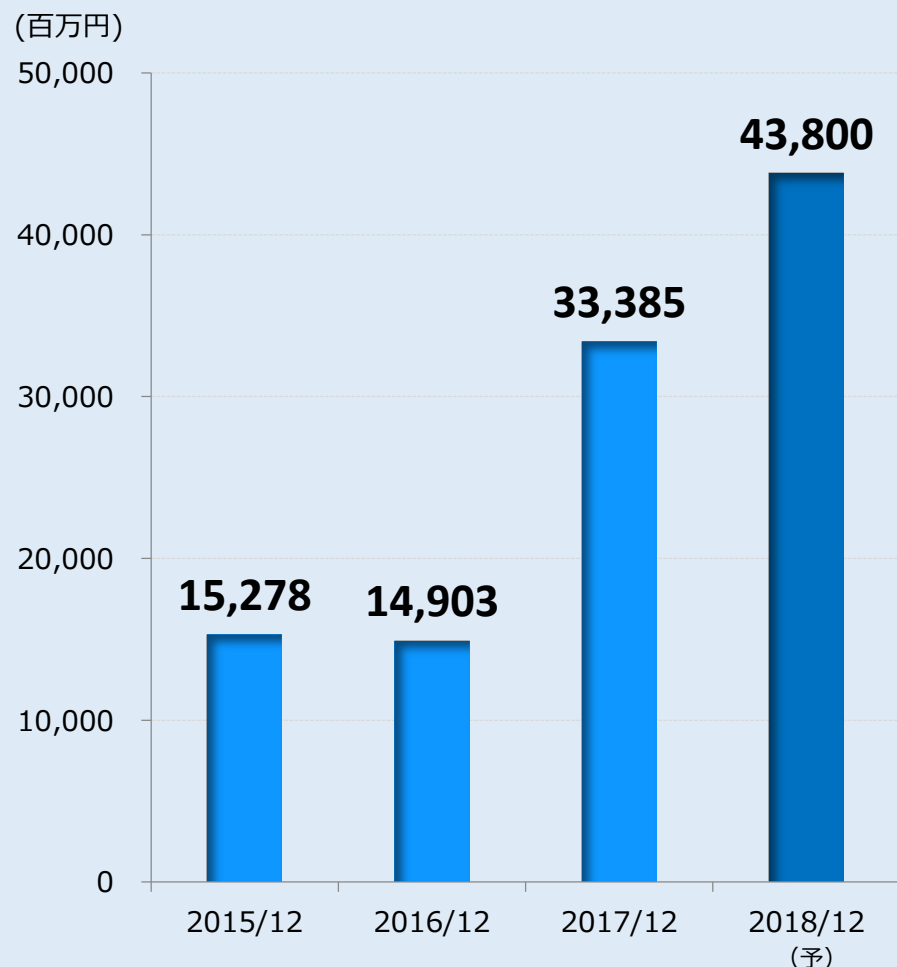


Appendix

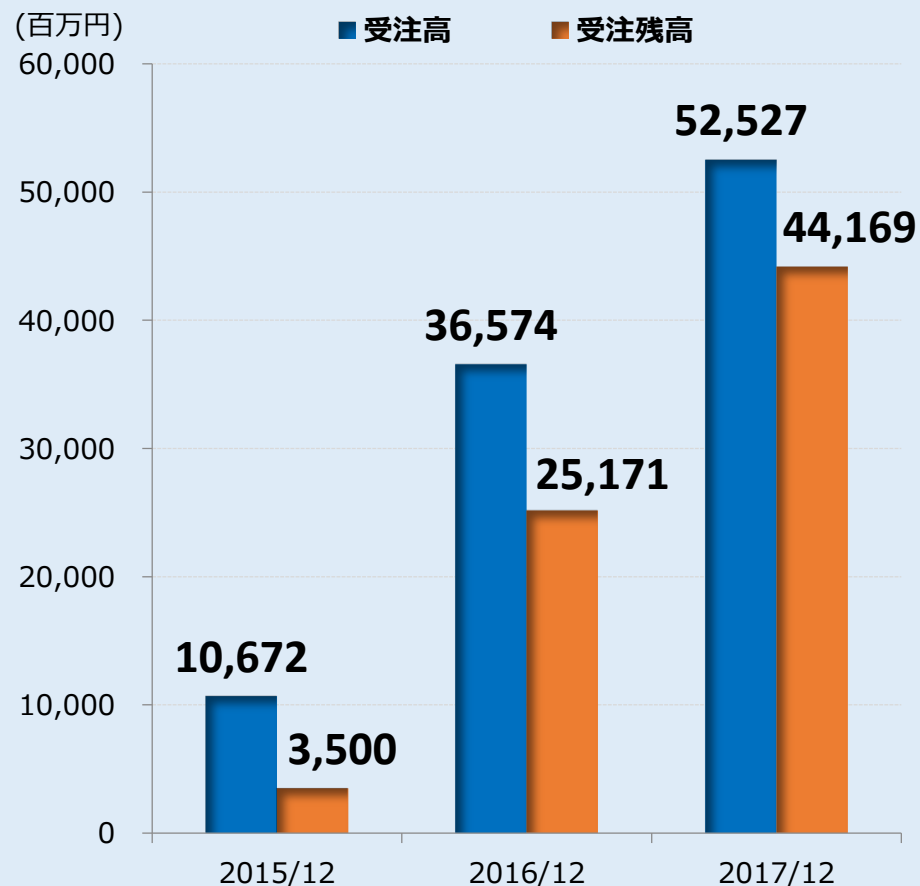
- 売上高及び受注高・受注残高の推移
- 営業利益及び研究開発費の推移
- 財務の状況
- CFの状況
- 地域別売上構成
- 分野別売上構成

売上高及び受注高・受注残高の推移

売上高の推移

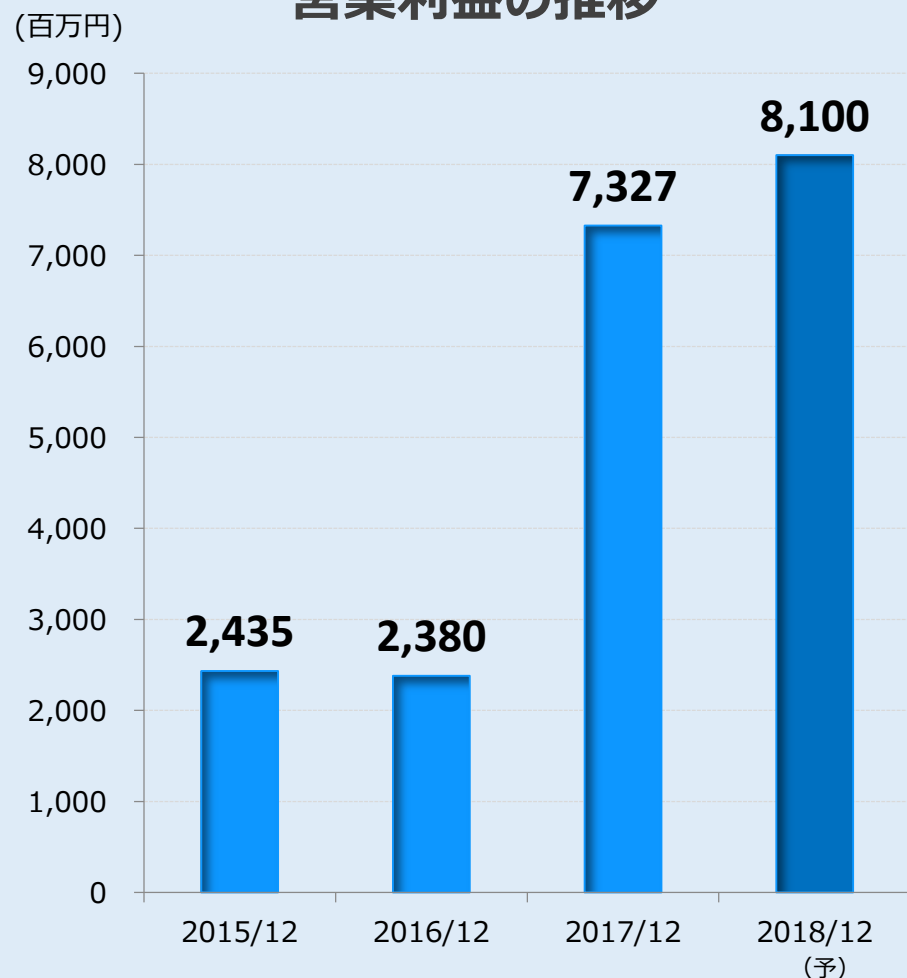


受注高・受注残高の推移

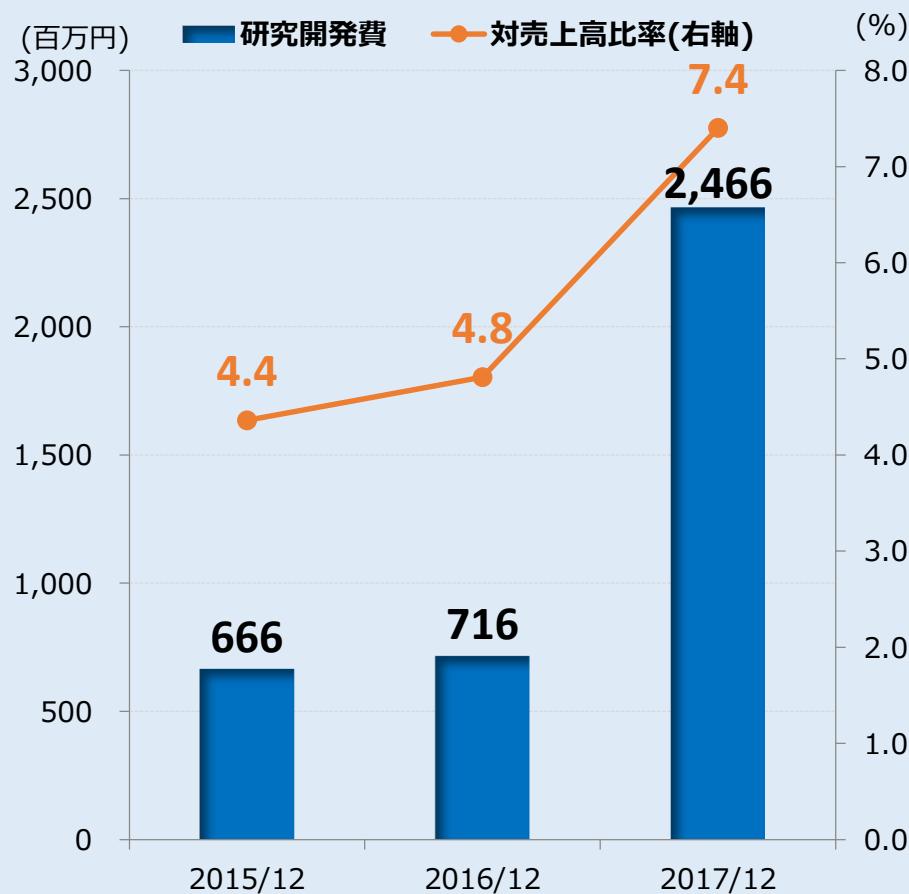


営業利益及び研究開発費の推移

営業利益の推移



研究開発費の推移



財務の状況



(百万円)

	2016年12月期末		2017年12月期末		
	金額	構成比	金額	構成比	増減額
流動資産	20,173	92.8%	52,255	92.6%	+ 32,081
現金・預金	5,357	24.7%	19,893	35.3%	+ 14,536
受取手形・売掛金	4,180	19.2%	3,380	6.0%	△800
棚卸資産	8,577	39.5%	25,107	44.5%	+ 16,530
貸倒引当金	△108	△0.5%	△181	△0.3%	+ 72
その他	2,166	10.0%	4,055	7.2%	+ 1,888
固定資産	1,556	7.2%	4,169	7.4%	+ 2,613
資産合計	21,730	100.0%	56,425	100.0%	+ 34,695
流動負債	9,580	44.1%	32,038	56.7%	+ 22,457
支払手形・買掛金	3,486	16.0%	7,303	12.9%	+ 3,817
短期有利子負債	3,432	15.8%	9,193	16.3%	+ 5,761
その他	2,662	12.3%	15,541	27.5%	+ 12,879
固定負債	1,516	7.0%	1,780	3.2%	+ 264
長期有利子負債	614	2.8%	432	0.8%	△181
その他	902	4.2%	1,347	2.4%	+ 446
負債合計	11,096	51.1%	33,818	59.9%	+ 22,722
純資産合計	10,633	48.9%	22,606	40.1%	+ 11,972
負債純資産合計	21,730	100.0%	56,425	100.0%	+ 34,695

・株式上場による資金調達
・大口受注分の販売代金回収

・出荷未検収装置の増加

・出荷未検収装置の増加による前受金の増加

・株式上場による資金調達
・利益剰余金の増加

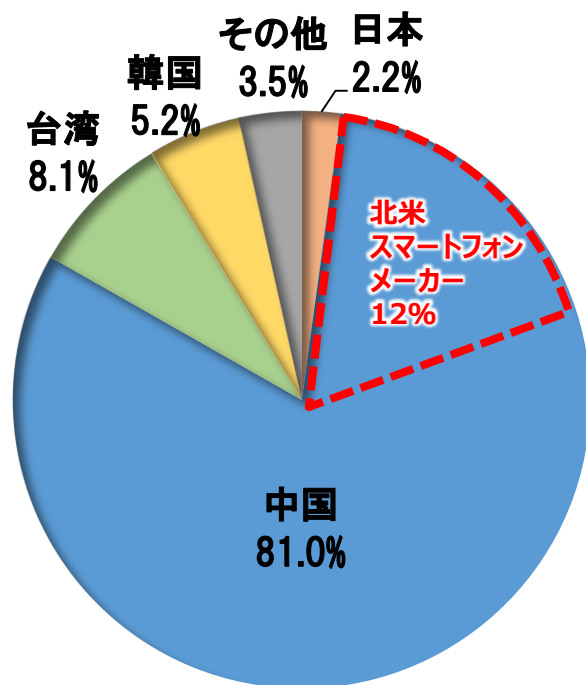
CFの状況

(百万円)

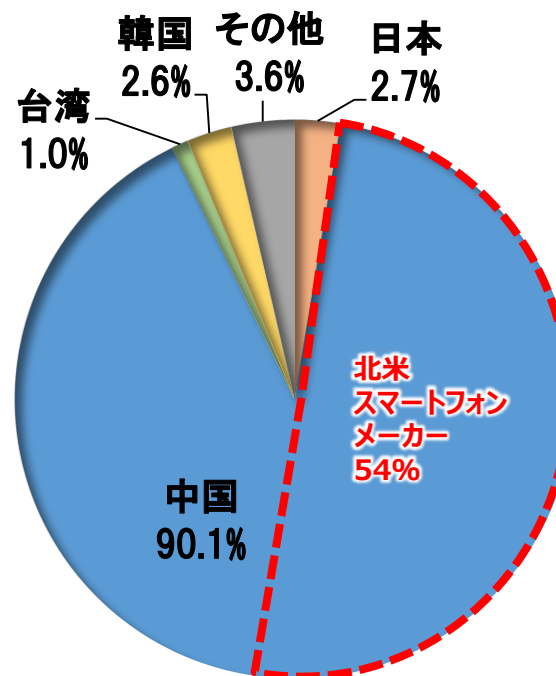
	2016年12月期	2017年12月期		主な要因
	金額	金額	増減額	
営業活動によるCF	△1,940	4,695	+6,635	・当期純利益増加 ・前受金増加
投資活動によるCF	928	△ 2,768	△3,697	・台湾新工場取得による支出
財務活動によるCF	1,458	12,446	+10,988	・短期借入金の純増 ・自己株式の処分による収入（上場時）
現金及び現金同等物に係る 換算差額	△222	161	+384	
現金及び現金同等物の増減額	224	14,536	+14,311	
現金及び現金同等物の期首残高	5,132	5,357	+224	
現金及び現金同等物の期末残高	5,357	19,893	+14,536	

地域別売上構成（光学薄膜装置設置先）

2016年12月期

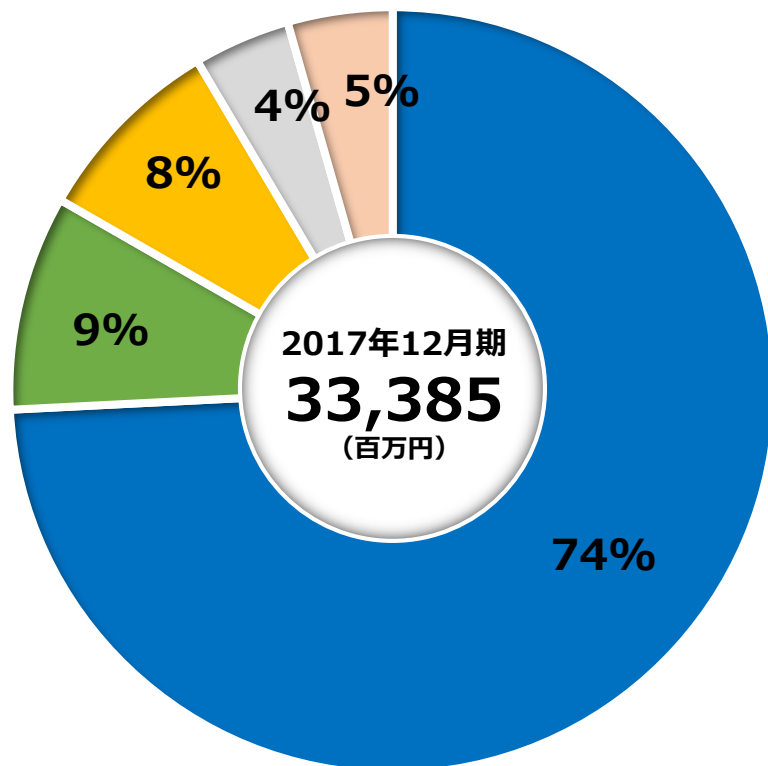


2017年12月期



スマートフォンの高機能化による成膜需要増加

分野別売上高



	金額 (百万円)	変化率 (前期比)
■ スマートフォン	24,771	+196.5%
■ カメラレンズ	3,034	+37.5%
■ IoT	2,734	+60.9%
■ LED	1,367	+159.3%
■ その他	1,477	△30.1%

当資料に記載された内容は、2018年5月11日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

【お問合せ先】

E-mail : ir-info@optorun.co.jp

TEL : 049-239-3381